

YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION MAGAZINE
<http://www2.hongwanji.or.jp/yba/>

No 138

makoto

浄土真宗本願寺派
仏教青年連盟機関紙「まこと」
2007(平成19)年11月25日発行
編集/発行: 仏教青年連盟 広報委員会
印刷: 創文堂印刷株式会社



「まこと」138号

編集・三浦明利 藤原慈信 加藤心樹 大沼浩美 井上泉
写真・北條明

01 特集 en

02 The大会アンケート結果

04 大会を終えて

中央委員長からのご挨拶

05 ダーナ献金のご報告

06 enの数珠つなぎ

大会にあわせて行われた奈良での交流会を報告します。

08 彼國の便り(en)

全国大会でのご法話

09 北海道旅のすすめ

「東林寺仏書」のサマーキャンプを報告します。

10 野外ライブとゲリラ雨

滋賀教区主催の「夏のつとめ」を報告します。

11 リピーターとなる魅力

門徒子弟研修会（お寺の林間学校）を報告します。

告知

行事予定を掲載します。

編集後記





特集 en

二〇〇七年夏、「en(えん)」をテーマに「2007全国真宗青年の集い本願寺大会」が開催されました。enの意味に触れ、多くの仲間と出遇い、ともに考え学び、それによってもたらされるつながり「縁」を感じていただく機会となりました。

今回のまことは、大会を経てひろがりつつある「en」がテーマです。「つながれ、ここから！」

大会アンケート結果.

大会終了時に回収させていただきましたアンケートの結果を、一部紹介させていただきます。

全体を通して、抽象的な回答が多かったですが、そこに大会テーマの『en』の意味があるように感じました。

Q 大会に参加したきっかけは何ですか？

仏教青年連盟・寺院関係だから

知人や友達からの誘い

開催地が本願寺だから

ポスターを見て

以前から興味があった

Q 初めて参加された方へ、大会の印象はどうでしたか？

イベントが充実していて楽しかった

出会いや交流が持てて良かった

色々な人が仏青に関わっているんだなあ

準備が大変そう

面白かった

その他のご意見

- ・会場や資料、グッズの品質が悪い。
- ・一日目の班行動が二日目にはもったいない。
- ・日程にゆとりがあってよかったが、法要や法話の時間が長い。
- ・参加費に対して、内容に価値があった。
- ・大会の内容が薄かった。
- ・法話の内容が難しかったが、若い講師を選んだのは良かった。
- ・班行動が多く、他の人と関われなかった。

Q 大会を終えて、あなたのできることを何ですか？

とにかく、できることから始める

何かについてシッカリ考える

エコバッグを持つ

無関心でないこと

自分を振り返る

心にゆとりがあれば募金でも

まず禁煙

人と人をつなげていくこと

知ること、感じることを、動き出すこと

少しだけガマンしてみる

自分が感じたことを、言葉や行動で表現する

ワクチン募金の電話をしてみたい

Q あなたにとって『en』とは何ですか？

生きること

過程

広がり

繋がっているもの

大切なもの

今、ここにいること

すべて

人と出会っていくこと

いろんな人が集まる場所、その力

生活に欠かせないもの

不思議なもの

生かされていることへの感謝



大会を終えて

実行委員長からの挨拶

文・大会実行委員長 中島宏一郎（大分教区）

現在、我々青年層を取り巻く環境は、日を追うごとに日々変化し、多くの仲間たちが心の居場所を見つけられずに苦しんでいます。

私たち浄土真宗本願寺派仏教青年連盟といたしましても「自分を見つめできることから始めよう」のスローガンや、宗門の基幹運動の理念のもと、青年が集い聞法する場を築くとともに、現代社会における諸問題に積極的に取り組む同朋（なかま）づくりにつとめてまいりました。

先般、「en」をテーマに開催された「2007全国真宗青年の集い本願寺大会」では、様々な「en」に出会い、それぞれの意味に触れ、多くの仲間たちとともに考え、それによってもたらされる繋がり「縁」を感じていただきました。

酷暑の中にもかかわらず、多くの参加者やスタッフをはじめとする皆様のお陰をもちまして、貴重なご縁に出遇わせていただき、無事に開催することができました。

そこで出遇った「en」を思い返しますと、普段気付かなかっただけで、いつも私を包んでくださる阿弥陀様の「ご縁」へ集束していったように思います。

今回の大会でいただきましたこの「en」を温め、来年開催されます「全国真宗青年の集い新潟大会」や、またそれ以降に活かすことが出来ましたらさいわいです。

最後に、今回の大会に関わっていただきました全体的に感謝いたします。ありがとうございました。

ダーナ献金のご報告

文・大会副実行委員長 大沼浩美（安芸教区）

「2007全国真宗青年の集い本願寺大会」でダーナ募金が集められました。温かい皆様からの募金総額は、128,693円でした。

この度のダーナ募金は、二〇〇七年七月十六日に発生しました新潟県中越沖地震で被害に遭われた方々への義援金として、浄土真宗本願寺派の「たすけあい募金」を通じて献金させていただきました。ご協力ありがとうございました。

また、今年は従来のダーナボックスではなく、環境問題に配慮し、ダーナステッカーを作りました。空き箱やペットボトルなどに貼付して、あなたのオリジナルダーナ募金箱としてお使いください。

集まった募金は、来年の「全国真宗青年の集い新潟大会」にお持ちいただくか、仏教青年連盟事務局までお届けください。

「ダーナ」とは、インドの言葉で「施し（ほどこし）」を意味し、互いによやまい助け合い、思いやる心のことです。毎年「全国真宗青年の集い」では、皆様に集めていただいた募金をひとつにまとめ、献金をしています。



来年は新潟大会です！
引き続きご協力のほど、よろしくお願ひします。

「ダーナ募金に関するお問い合わせ」

浄土真宗本願寺派

仏教青年連盟事務局

電話 075-371-5181(代)

メール: yba@hongwanji.or.jp

http://www2.hongwanji.or.jp/yba/

e n の数珠つなぎ

e n の数珠つなぎ

文と写真・奈良教区 仏教青年連盟 委員長 太田 智昭 (奈良教区)

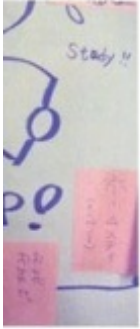
「教区の枠を超えた交流がしたい」「e n」を大会(注1)だけで終わらせたくない」という思いに引き寄せられ、仲間が奈良教務所に集まった。総勢五十名。

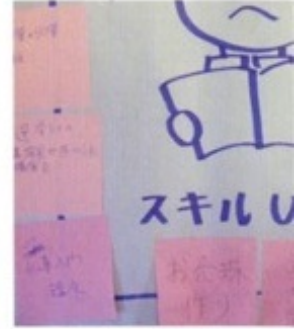
「どうやって個人の想いを出してもらおうか?」「どうすれば全体で共有できるか?」これを満たす方法としてブレインストーミング(注2)を行った。一方通行になりがちな自分の意見を見つめ直し、人の意見を聞く機会を作ること、個々の持ち寄った仏教青年連盟についての想いやアイデアに溢れた「円」ができた。

大会は終わっても、そこで終わりではない。集まりが「宴」だけではもったいない。大会後のいろんな「e n」の数珠つなぎ。今度はあなた、一緒につないでもらえませんか?

注1) 大会…2007全国真宗青年の集い 本願寺大会

注2) ブレインストーミング…会議の方法の一つ。時間内に自分の想いを書き、皆と意見を共有すること。





奈良教堂の交流会に参加して

文・都路実道（東海教区）

交流会は奈良教区の人たちの絶妙な進行で、テンポよく進んでいった。

「絵によるしりとり」では、自分のイメージを伝えることの難しさを感じた。そうして、普段いかに言葉に頼っているか、また、伝わっているつもりで伝わっていないことも多いのだと感じた。

ブレインストーミングでは、短時間にみんなでアイデアを出し合うことで、生まれる創造性のすばらしさを知った。様々な気付きがあり、有意義な時間だった。

文・鹿児島教区 仏教青年連盟委員長 杉尾巨樹（鹿児島教区）

本年度行われた仏青全国大会に併せて、第2・5ブロック合同の研修会を、いま最も活気があるという奈良教区さんにお邪魔させていただく形で開催しました。

今、ビジネス・モデルで注目されている「ブレイン・ストーミング」をわかりやすい遊びにした研修は、初めて仏青活動に参加した人も理解しやすい内容で、鹿児島教区が目指している「わかりやすく面白く面白い仏青活動」を実践していることに驚かされました。夜は、和やかな懇親会もあり、とても充実した研修会となりました。

奈良教区のエネルギーな活動を、鹿児島に活かし、この勢いが全国にも飛び火していくことを期待しています。



彼國の便り

(en)

先日、祖父の二十五回忌がありました。祖父の往生は、私が五歳の時でしたので、あまり多くの思い出は残っていません。ただいつも膝の上に抱きながら、可愛がってくれたという思いだけが残っています。今振り返ってみると、この祖父に対して色々な思いを抱きながら生きてきた自分の姿があります。

十代の頃、私はあまりお寺を継ぎたくありませんでした。そういう思いを抱いている頃は、「何でうちはお寺なんだろう?」「おじいちゃんが お寺を始めなければ、何の職業に就いても文句言われぬのに」と祖父を恨んだことさえありました。しかし考えてみれば、今の自分がここに居ることも祖父のおかげなのです。

小学生の頃、幼いながらに覚えたお経。そのお経と共に門徒さんのお宅を回っていました。その中で、色々なご門徒のみなさんが、我が子のように可愛がって下さり大きくなったのです。考えてみれば学校に行くこと、ご飯を食べること、どれ一つとってもご門徒のみなさんの力なしには出来なかったことばかりです。そのご門徒のみなさんを教化していたの

が祖父なのです。

ご門徒の方々は言います。「多くを語る住職さんではありませんでしたが、戦後、お互いに食べるものにも困った時代の中にも、必死で仏さまのおみりを伝えようとしていた方でした。」祖父の尽力が、今、まわりまわって私を育ててくれたのです。

そのことに気づいた時、このままの自分で良いのだろうか? 自分が好きなことだけをしていくことが本当に自分ののちを満足の中に過ごすことなのだろうかと思わずにはおられません。今私がお寺の後継住職として仕事をさせていただいているのは、そうして私を育ててくれたみなさんに対する恩返しでもあります。今度は私を育ててくれた方々の、一つ下の世代のみなさんに仏法を伝えていく。それが私の務めです。

あなたは、どんな一生を今まで過ごしてきましたか? 振り返ってみたときに、改めて自分の周りに広がる縁の深さに気づくはず。その時、自分がなすべきこと、してはいけないことが自ずと見えてくるのではないのでしょうか。



舟川 智也 (北豊教区)
浄土真宗本願寺派
仏教青年連盟 前中央委員長

北海道 旅のすすめ

文・多田 尊宗（岐阜教区）

朝刊を見ながら北海道へ出発。八月十七日、朝刊は一面「過去最高気温」という見出しであった。そう、私が住んでいる岐阜では、昨日四十度を超えたのであった。この旅の目的は、十八・十九日に行われる「東林寺仏青」のサマーキャンプに参加することである。

北海道は、僕の想像を超えていた。なぜなら、八月だというのに十七度という寒さであったからである。私の格好は、見るからに沖縄にでも行くような服装であったため、非常に場違いであったと反省した。恥ずかしー。

十八日朝、小樽別院へ参拝をした後、倶知安町にある東林寺へ向かった。昼過ぎからの開会式の後、「ゆめの森」では、函館・小樽・札幌の各別院仏青の約三十名の参加者と共に、乗馬や筏作りをし、作った筏での川遊びも体験した。あー楽しかった。

夕飯は、もちろんジンギスカン（焼肉）。また、ドラム缶風呂にも入らせてもらい、とても有意義な時間を過ごした。でもこのまま終わる訳がなく、東林寺に帰り、夜遅くまで語り合い、親睦を深めた。岐阜からの飛び入りを温かく受け入れてくださった皆さんには「感謝・感激」だった。ありがとうございました。

十九日は、解散の後、洞爺湖を巡った。その後、数日は一人旅で、北海道の友達の家泊めてもらったりしながら、北海道を一周した。札幌別院、北海道テレビ塔、時計台、旭山動物園、サロマ湖、網走監獄知床半島、摩周湖、屈斜路湖、硫黄山、釧路湿原、芦別、ニセコなど北海道を満喫した。

この一人旅で、いろんな人との出会い、さらに多くのご縁をいただいたことに、感謝したい。

野外ライブと ゲリラ雨

文・中山真理子（滋賀教区）



八月某日、滋賀教区主催の「夏のつどい―バーベキュー企画―」に参加しました。

奈良教区と京都教区の三教区合同開催で、顔馴染みの人や、初めての人も楽しい時間を過ごすことが出来た夏の思い出です。その中でも一番印象的だったのは、仏教青年連盟（以下、仏青）のメンバーによる野外ライブでした。

八月はゲリラ雨（夕立）が多く、ちようど豪雨に遭遇してしまいました。すべての音をかき消してしまう雨の中でも、私たちの輪では歌声が響いていました。改めて、感動を与える人間の声の美しさを実感しました。

私は、仏青にはまだ数年しか参加させていただけいていません。しかし、そんな短い間にも、仏青を通して多くの方と出会い、ご縁のありがたさを感じています。普段、私が生きている「社会」を超えた仏青の方との出会いは、私の大きな財産だと思っています。

現代の日本人の中で、宗教に怖いイメージを持つ人は少なくありません。しかし、宗教は怖いものではないのです。例えば美しい音色がそうであるように、そっと私たちの横にあって、安らぎを与えてくれるものだと思います。

私は歌が好きです。人間の体が楽器となって奏でる歌は、世界で一番美しい音色だと思うからです。その声を使った仏教讃歌に私たち自身がもっと触れて、隣の人に歌って、その人がまた隣の人へ歌って…と、歌の輪が出来れば、歌声が溢れるステキな社会になるのではないのでしょうか。私はそんな安らぎのある社会を、仏青での活動を通してめざしていきたいと思っています。

リピーターとなる魅力

「キッズサンガに向けて関わり続けること」

文・南荘撰（東京教区）



「また来年ね!」「また絶対会おうね!」一見社交辞令のように聞こえてもおかしくない言葉だが、各人が異口同音に発するこの言葉の大多数が現実となるから不思議である。

東京教区南ブロック（神奈川県、静岡県、山梨県）では毎年夏に、各組が交代で当番となり「門徒子弟研修会（お寺の林間学校）」を開催している。この研修会は参加者、サプリーダー、スタッフで構成される。スタッフは当番組が中心となるのだが、南ブロックの少年連盟関係者をはじめ、若手僧侶が毎年各地域から集合する。サプリーダーは高校生から二十代で、各班に分かれて参加者である子どもたちのサポートをしたり面倒を見たりする。参加者は小学三年生から中学三年生で、毎年七十人ほどにもなる。私は小学校の頃から参加しているが、スタッフ、サプリーダー、そして参加する子どもたちの関係というのか、その絶妙なバランスがこの研修会の大きな魅力であると思っている。サプリーダーも含め参加者のリピーター率が非常に高い

のは、各世代同士はもちろんのこと、違う世代が同じ空間にいて、みんなが上手に関わりあっているからではないだろうか。だから、また来年も来たいと思うのかも知れない。

第三十六回となった今年は神奈川県足柄上郡を舞台に、毎年恒例のゲーム大会や仏さまのお話、キャンプファイヤーに加え、川遊びやダム見学、ビール工場見学など様々なプログラムが用意され、二泊三日の全日程を終了した。意外に思われるが私は大のブラジル好きであり、昨年からはキャンプファイヤーで時間をいただいで、子どもたちにブラジルのダンスを教えている。

今日宗門では盛んにキッズサンガが叫ばれている。この南ブロック門徒子弟研修会のように、我々仏青世代が子どもたちと関わっていけることはたくさんある。私たちが今後どのような形でこのキッズサンガの普及に関わっていかれるのか、そして貢献していかれるのか、これからの課題であり、また楽しみでもある。

告知

◎2008 全国真宗青年の集い 新潟大会

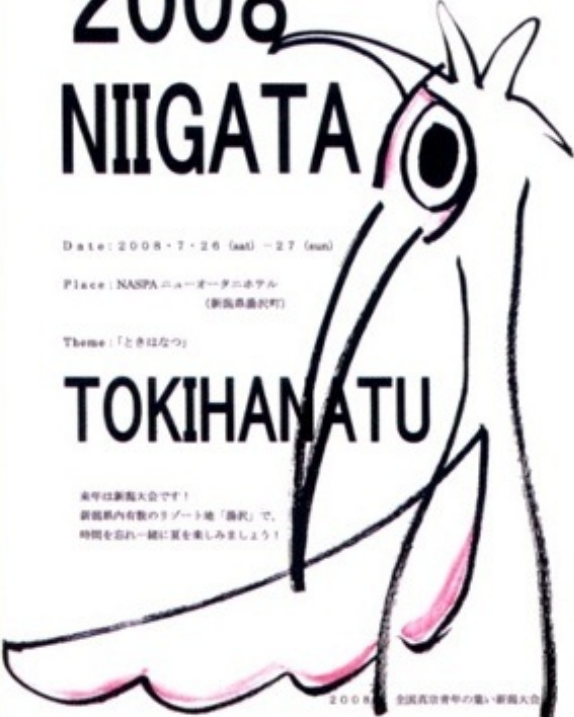
二〇〇八年七月二十六日(土)～二十七日(日)

大会テーマ「ときはなつ」

ところ：NASPAニューオータニホテル(新潟県湯沢町)

文・新潟大会実行委員長 伊藤教恵(新潟教区)

二〇〇八年(平成二〇)年七月二十六日～二十七日の日程で全国真宗青年の集い新潟大会が新潟県湯沢町で開催されます。現在、YBAにいがたのメンバーを中心に三十名程で準備にとりかかっています。



2008 NIIGATA
Date: 2008・7・26 (sat) - 27 (sun)
Place: NASPAニューオータニホテル
(新潟県湯沢町)
Theme: 「ときはなつ」
TOKIHANATU
今年の新潟大会です！
新潟県内有数のリゾート地「湯沢」で、
時間を忘れる一瞬に夏を楽しみましょう！
2008 全国真宗青年の集い-新潟大会

大会のテーマは「ときはなつ」です。私たちは日常生活において、自分が見望む、望まない、気づいている、気づいていないに関わらず、様々なことに縛られてないでしようか。(人間関係、仕事、勉強、携帯、メール...) その様な、しがらみを「ときはなつ」瞬間って気持ちがよくって爽快じゃないですか。そんな想いを、自然と温泉の満喫できる湯沢で参加者の皆さんに感じていただけたらいいですね。実行委員一同、意気込んでいますので、全国からたくさんのご参加をお待ちしています。



第56回
本山成人式
ともにいのち
かがやく世界へ
「真宗の心を伝へて」
とき 2008(平成20)年1月13日(日) ところ 西本願寺 新潟県 新潟市

◎第56回 本山成人式

二〇〇八年一月十三日(日)

ところ：本願寺 総御堂・開法会館

本願寺では今年度成人となられる門信徒や寺族の方を対象に成人式を行います。ぜひご参加ください。

申込み・お問い合わせ

浄土真宗本願寺派宗務所内組織教化部 本山成人式係

電話 075-371-5181(代)

http://www2.hongwanji.or.jp/soshiki/seijinshiki/56th_2008/

bohu56th.html

「編集後記」

三浦明利思えば、仏教の極意ともいうべき「縁」とは何かという大きなテーマに突き動かされてきた二年間だった。辞書や書物をいくらあさっても出てこない答えを、仏青の仲間たちは応えてくれた気がする。「まこと」を手にとってくれたあなたには、仏法によって人と人が繋がっていくおもしろさを仏青で知ってほしい。

井上泉私事ですが先日結婚式をしました。そのことで、自分はどれだけたくさんの「縁」の中で生きているかを改めて感じる事ができました。広い世界の中で、また常に時間が流れている中で、みなさんと関わりが持てたことが嬉しいです。あともう一つ私事ですが、兄ちゃん（南荘）原稿ありがとうございます。

藤原慈信近頃、お気に入りの法語ス。「頑張れもいいでもそのままと如来さま」頑張れる人は頑張つて、そうでない人は無理しなくてええんどす。じゃけえ、アタイはアタイなりに頑張ればええ、それだけ。みんな、そんなに周りを気にしなさんな。でもいっぱい気は遣いんさいヨ！

加藤心樹先日、大会後の余韻を引きずって門司港のレトロ口地区へ行ってきました。長崎出身だけにノスタルジックな場所は、なんとも言えないものが。ふと入ったお店で「ミックスジュース」を注文すると、ほとんどバナナ味のジュースが出てくる。よく見ると店内ポスターに「バナナフェア」って書いてる（笑）。そんな甘いジュースを片手に大会を思い返せば、このジュースみたいなものだったのかも。コイツをググっと飲みほせば、後はイイことあるかもね。

大沼浩美「全国真宗青年の集い本願寺大会」も無事に終わり、各地の方からたくさんの感想を聞きました。その感想の中に、スタッフさんの笑顔が嬉しかったとの意見があり、私もとっても嬉しかったです。お互い笑顔だったなら最高だ！
参加してくださったみなさん、本当にありがとうございました。たくさんの繋がりを日々大切にしたいな…と、そんな風に思う私「おかん」なのでした。

仏教青年連盟事務局メールアドレス yba@hongwanji.or.jp

ひとりでも多くのみなさんのご意見を反映できるよう充実させていきたいと思っておりますので、ご協力とご支援をよろしくお願いします。



2008
全国真宗
青年の集い
新潟大会
in湯沢

浄土真宗本願寺派
仏教青年連盟機関紙

wakata
No. 138

2008(平成20)年
7月26日(土)
~7月27日(日)
大会テーマ
「ときはなつ」

二〇〇七(平成十九)年十二月二十五日発行
編集/発行 仏教青年連盟 広報委員会

印刷 創文堂印刷株式会社

[浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟 広報委員会]
〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル
浄土真宗本願寺派 宗務所内
電話:075-371-5181(代)
メール:yba@hongwanji.or.jp
<http://www2.hongwanji.or.jp/yba/>



4910753715181
00138